

河南町ひとつづくりビジョン（人口ビジョン） 概要版

I. はじめに

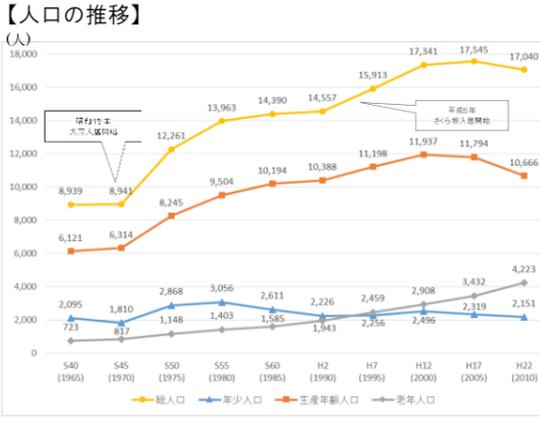
1. 背景

* 日本は人口減少時代に突入
 * 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、「人口減少がこのまま続けば、人口は急速に減少し、その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなるのである。」と警鐘を鳴らす
 * 河南町の人口は、平成 17(2005)年国勢調査の 17,545 人をピークに、平成 22(2010)年の国勢調査で減少に転じた

II. 河南町の人口の現状

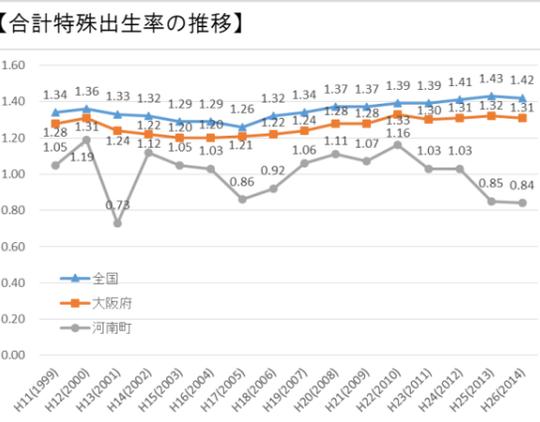
1. 人口

◎大規模住宅団地開発により人口は2倍に。平成17(2005)年の17,545人をピークに減少



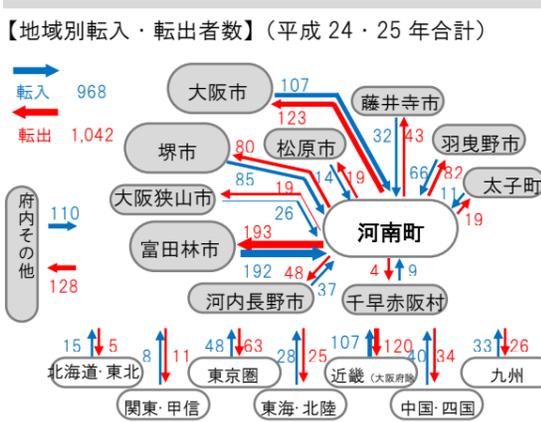
2. 自然動態

◎合計特殊出生率は平成24(2012)年までは、概ね1から1.2の間で推移。平成25(2013)年以降下降傾向



3. 社会動態

◎羽曳野市、大阪市、近畿圏、東京圏などで転出超過



III. 社会保障・人口問題研究所による人口推計

* 平成 52(2040)年には12,500人程度、平成 72(2060)年には8,900人程度
 * 平成 22(2010)年を基準とすると、平成 52年には27%減、平成 72年には48%減
 * 平成 22(2010)年以降、年少人口・生産年齢人口は減少。老年人口は、平成 32(2020)年までは増加するが、以後横ばいとなり、平成 52(2040)年以降減少に転じる
 * 平成 52(2040)年には老年人口と生産年齢人口の比率は1:1.3、平成 72(2060)年には1:1に

2. 人口ビジョン

* 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、河南町の人口を分析し、人口減少問題に関する住民の認識の共有、平成 72(2060)年までの将来の方向と人口の展望を示すもの

IV. 将来展望

1. 人口減少・人口構造変化が地域の将来に与える影響の考察

【生活へ与える影響】
 * 空き家、耕作放棄地の増加により、治安面の不安増大や地域魅力の総合的低下
 * 少子化に伴う学校規模縮小。高齢化に伴う地域活動の担い手減少、一人暮らし高齢者や孤独死の増加
 * 路線バス等の地域公共交通の縮小により交通利便性が低下
 * 医療介護関連サービス等の生活基盤サービスが縮小

【地域経済へ与える影響】
 * 生産年齢人口の減少に伴う活力低下、技術伝承が懸念
 * 人口減少による消費支出の減少、人口構造変化に伴う消費スタイルや支出品目の変化
 * 店舗や売上の減少による地域経済の停滞。購買の選択性が縮小し利便性の高い場所への人口流出も懸念
 * 人口の減少や空き家の増加による不動産活用の低下

【財政へ与える影響】
 * 住民税や固定資産税等の減少と1人当たりの負担増大が懸念
 * 老年人口の増加に伴う医療費・社会保障費の増大
 * 生活に必要なサービス維持、防犯、治安維持等の歳出増加
 * 公共施設の再編統合

2. 目指すべき将来の方向

<人口の将来展望>

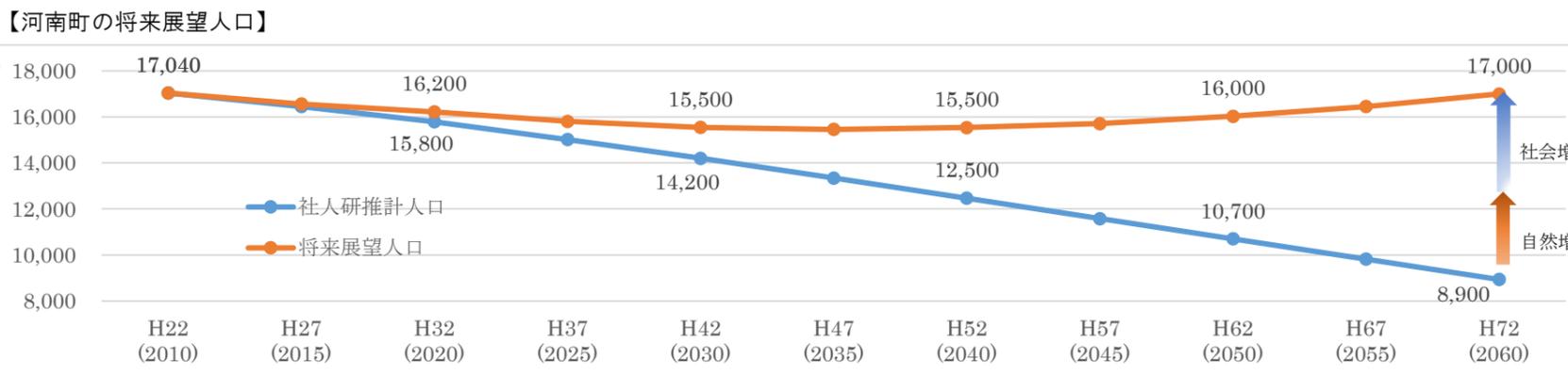
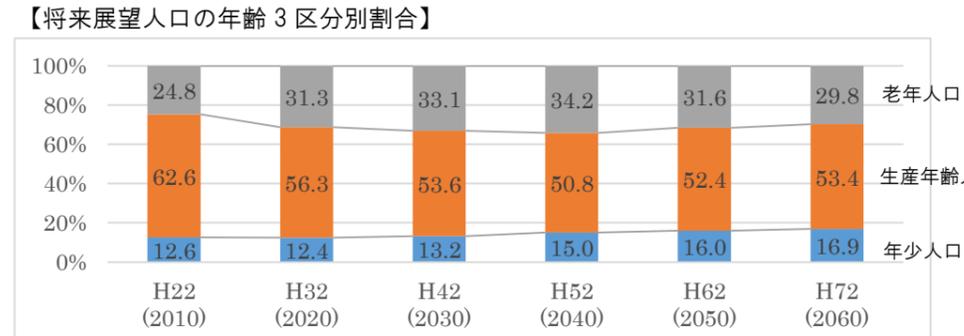
平成72(2060)年に 17,000人

<合計特殊出生率>

○平成 42(2030)年に1.8、平成 52(2040)年に2.07に向上

<人口の定着>

○社会増を平成 37(2025)年に35人程度、その後徐々に増やし、平成 52年(2040)年に120人程度、平成 72(2060)年には180人程度に増やす



<取り組みの方向性>
 住みたいまち、住み続けたいまちを目指して

- ◇子育て・教育等の総合的な支援の充実により、若い世代が魅力を感じる河南町をつくり、出生数の増加を目指す。
- ◇すべての人の生活の場を整え、人口の流出を抑制する。
- ◇暮らしやすさ、環境、仕事等の地域魅力を発信し、活発な地域間・世代間交流やI・J・Uターンを促す。